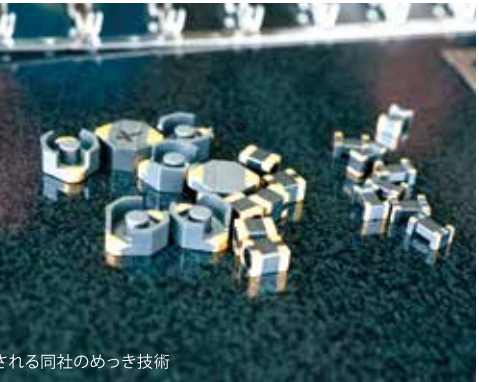


日本のものづくりに必要な不可欠 高度なめっき技術で 産業機器の進化を支える

エコプレイティング

エコプレイティング（大和市深見西、久保内茂代表、046・263・5135、<http://www.ecoplating.co.jp>）は、平成14年1月にコネクタメーカーである（株）クエイザーシステムの子会社としてスタートしてから平成21年に独立した。半導体検査装置や自動車エンジン制御部品などの産業機器用コネクタピンのめっき加工を主業としている。

そもそも「めっき」とは、数ある表面処理技術の中でも代表的な



微細な部位にまで発揮される同社のめっき技術

もの一つで、具体的には金属材料などの表面に、金属質の「膜」をつけることである。はんだ付け性や、電気抵抗、接触抵抗などの機能を付与するための技術で、日常生活でも「めっき」とまったく無縁で過ごすのは難しいほど多用されている。同社は、精密コネクタに使用されるNi下地Au・CoめっきのみならずNi・Pd・Auの三層めっきも得意としており、さらにめっき加工後処理の薬品を塗布する工程も、顧客の要望や仕様に合わせて各種の後処理剤の塗布に対応している。そんな細やかさと、町工場ならではのスピーディーな対応、高度な技術力で大手コネクタメーカーからも高い信頼を得ている。

また、同社の強みとして、特にコネクタピンのめっきで使用する微細なフープめっきに注力しており、わずか3mm程度のコネクタピン本体に0.1mm単位でめっき幅をコントロールできる加工技術を有している。そんな希少技術を持つ同社に対し、いつそう高度な機械化や検査対象物の超微細化が加速する近年では、微粒子や繊維がまったく付着しないめっきを行えないかといった要望も多く、現在開発中である。これが実現すれば、付着を一切許されないコネクタピンのめっき加工の受注が可能になり、全国的にも珍しい革新的な技術が誕生することになる。

めっき加工のご依頼をぜひ検討してみたいかがだろうか。